

危機下の子どもたち

本地図は、国や領土の法的地位や国境線の位置について、ユニセフの立場を表明するものではありません。

以下の地図は、子どもたちとその家族に影響を及ぼしている重大な危機を示している。

ハイチ

ハイチの人々は、近年の同国史上最悪の人権侵害と生活への脅威に直面している。その結果、前例のないほどの規模のジェンダーに基づく暴力が発生するなど、慢性的かつ深刻な人道的ニーズが生じている。長引く政治的混乱、疾病の発生、災害、武力衝突の激化が続き、その結果、300万人の子どもたちが人道支援を必要としている。少なくとも20万人が国内避難民となっており、この中には虐待、搾取、暴力にさらされている、おとなの同伴者のない子どもたちも多く含まれている。2024年には、約340万人が水と衛生の支援を、120万人以上の女性と子どもが緊急保護サービスを、10万人以上の5歳未満の子どもが重度消耗症の治療を、190万人の子どもが教育へのアクセスを必要としている。



メキシコと中米で移動する子どもたち

メキシコと中米では、貧困と暴力から逃れるため移住する子ども連れの家族が増加している。この現象により、当該地域を移動する子どもとその家族の数は過去最高を記録し、410万人の子どもを含む1,100万人が人道支援を必要としている。



コンゴ民主共和国

コンゴ民主共和国は、国連が確認した子どもに対する重大な権利侵害の件数が、世界で最も多い国である。また、国内避難民の数も、最も多い国のひとつである。合計で1,490万人の子どもたちが、武力紛争の激化、度重なる疾病の集団発生、性暴力の蔓延、人道的アクセスの制限といった事態の最も重大な影響を受けており、この状況は彼らの脆弱性を悪化させ、死亡率を高めている。国全土で120万人以上の5歳未満の子どもが重度の消耗症の治療を必要とし、400万人の女性と子どもが保護サービスを必要とし、660万人の子どもが水と衛生に関する緊急支援を必要とし、160万人の子どもが緊急の教育サービスが必要としている。



サヘル危機の波及

中央サヘル諸国（ブルキナファソ、マリ、ニジェール）で進行中の危機の波及は、ベナン、コートジボワール、ガーナ、トーゴの北部にあるコミュニティにとって恒久的な脅威となっている。2021年1月から2023年10月にかけて、これら沿岸4カ国の北部地域で、即席爆発装置の使用拡大などセキュリティ上の脅威となる事件が882件報告された。このような状況は、社会サービスや市場に対する制限の増大につながっている。また、一部の経済活動の縮小も引き起こしており、それ自体が国内および国境を越えた人口移動を促している。不安の増大は家族が避難せざるを得なくし、子どもたちとその家族のウェルビーイング、そして子どもたちの心身の発達に悪影響を及ぼしている。これらの沿岸4カ国では、国内避難民、帰還民、難民の数は現在、3万6,000人の子どもを含む12万3,000人と推定されている。ブルキナファソ、マリ、ニジェールの政治力学や紛争のダイナミクスを考慮すると、これらの数は増加する可能性がある。



パキスタン

パキスタンは、子どもたちやその家族にとって極めて困難な状況を生み出す多くの課題に直面している。同国は気候変動の影響を非常に受けやすく、世界で最も災害の多い国のひとつとなっている。さらに、気候変動の影響は年々大きさを増している。その結果、洪水や異常気象が頻発し、すでに脆弱な立場にいる人々がその影響を最も受けている。2022年には壊滅的な洪水が同国を襲い、3,300万人が被災した。被災者の半数は子どもでまた合計1,100人が命を落とした。1年が経った現在も、被害の大きかった地区の多くは、同国で最も脆弱な場所のひとつに数えられており、人々は必要不可欠なサービスを受けることが制限されている。広範な人道支援活動にもかかわらず、未だ2,660万人が支援を必要としている。



アルメニア

2023年9月24日から10月4日の間に、3万人の子どもを含む10万632人のアルメニア系住民が、出身地での軍事作戦を受けてアルメニアに逃れた。このグループの約52%は女性と女の子、31%は子どもで、16%は障がい者である。アルメニア全土で約9万8,000人の難民が公式に登録されており、エレバンが最も多く、次いでシュニク州、コタイク州、アララト州となっている。流入する難民があまりにも多いため、難民を受け入れているコミュニティにもさまざまな面で大きな影響が及んで人々の生活はすでに手いっぱいになっており、受け入れコミュニティの推定9万5,000人も支援を必要としている。



ソマリア

進行中の紛争、不安定な情勢、干ばつ、洪水、疾病の集団発生により、413万人の女の子と女性、120万人の障がい者を含む825万人が緊急に人道支援を必要としている。食料不安と気候ショックによる380万人の避難が、既存の人道危機をさらに激化させている。2023年の「グ（Gu）」と呼ばれる雨期（4月～6月）の降雨と人道支援は一定の救済をもたらしたが、ソマリアでは深刻な食糧不安が続くと予測されている。現在、推定430万人が急性食料不安（IPCフェーズ3）がそれ以上のレベルの食糧不安に陥っている可能性があり、2023年中には100万人以上が人道危機（IPCフェーズ4）に陥る可能性がある。



ウクライナとウクライナ難民対応

ウクライナで続く戦争は、子どもたちや家族の生活に壊滅的な打撃を与え続けている。ウクライナ全土で460万人が帰還しているが、370万人以上が依然として国内避難民となっている。またヨーロッパ全土で600万人近い難民が受け入れられており、その88%は女性と子どもである。500万人が各国における公的保護制度を申請している。子どもたちのメンタルヘルス、学習また、保健・水・電気・暖房などのサービスへのアクセスは、引き続き影響を受けている。多くの子どもたちが疫病、家族との別離、暴力（ジェンダーに基づく暴力を含む）のリスクにさらされている。

東アジア・太平洋地域

東アジア・太平洋地域は、依然として世界で最も災害の多い地域である。2023年、この地域で暮らす人々は、サイクロン、洪水、地滑り、地震、火山噴火、干ばつに加え、内戦や地域間紛争を経験した。エルニーニョ現象は、この地域での異常気象や避発性の災害を増大させ、気候変動が人々の生活にすでに及ぼしている大きな影響をさらに深刻化させるだろう。2億1,000万人以上の子どもたちがサイクロンの被害に、1億4,000万人が水不足に、そして1億2,000万人が沿岸洪水の被害に遭うリスクにさらされている。



スーダン

スーダンでは紛争により、1,400万人近い子どもたちを含む2,500万人近くが人道支援を必要としている。現在600万人が移動を続けており、そのうち100万人以上は安全を求めて国境を越えている。300万人以上の子どもたちが移動しており、世界最大の子どもの避難における危機の拠点となっている。2023年4月以来続く紛争の前から、スーダンはすでに370万人の国難民を抱えていた。また、同国は約100万人の難民の受け入れ国にもなっている。



南スーダン

南スーダンは2024年、人々の脆弱性の増大、人道的ニーズの増大、支援のための資金の大幅削減という複雑な年に直面する。政情不安、暴力、広範な洪水、疾病の集団発生、そして高いインフレ率が、同国で最も脆弱な立場にある人々、とりわけ子どもたちの窮状と慢性的なニーズに拍車をかけている。人々の生活は深刻な影響を受けており、教育、栄養、水、衛生設備、保健サービスへのアクセスは妨げられている。子どもたちは虐待、暴力、搾取、心理社会的苦痛の高いリスクにさらされており、学校に通えていない280万人の子どもたち（52%が女子）は特に脆弱な立場にある。女性と子どもは、ジェンダーに基づく暴力の最大のリスクにさらされている。



エチオピア

エチオピアは、武力紛争や地域間の暴力、気候災害、疾病の集団発生、急性食料不安、高いインフレ率のために、複雑で長期化した人道危機に直面している。これらはすべて、大規模な人口移動の原因となっている。人道的アクセスの制約、食料支援の停止、新たな難民の大量流入によって、この状況はさらに悪化している。1,540万人の女性と子ども、約440万人の避難民、180万人の障がいのある子ども、11万7,000人の新たな難民を含め、合計2,000万人以上が緊急の人道支援を必要としている。



アフガニスタン

アフガニスタンでは、2,330万人という途方もない数の人々が人道支援を必要としており、そのうち1,260万人は子どもである。女性と女の子は、教育や雇用、社会参画、さらに公共サービスへのアクセスを制限され、危機における最大の被害を受け続けている。女性が世帯主である家庭では状況が悪化していることを示す証拠が確認されており、このような制限が女性と女の子に与える悪影響は顕著である。さらに、制限や排除は既存のジェンダー不平等をより深め、保護に対する懸念を増大させている。これは、女性と女の子の間でニーズが拡大し続ける悪循環を生み出している。



パレスチナ

パレスチナには、人道支援を必要とする人々が推定310万人おり、そのうち220万人がガザ地区に、90万人がヨルダン川西岸地区に暮らしている。2023年10月7日にガザ地区で始まった紛争の激化は、長期化している子どもの保護に対する危機を、さらに深刻なものにしている。この激化により、何千人もの子どもや女性が亡くなり、毎日160人の子どもが危険な状況下で生まれるなど、深刻な人道的影響が引き起こされている。さらに、ガザ地区の人口の80%以上にあたる180万人の国内避難民が、水・電気・医療など基礎的なサービスへのアクセスが著しく制限されるなど、ますます悲惨な人道的状況に直面している。



ミャンマー

ミャンマーの子どもたちの状況は悪化しており、依然として重大な懸念事項である。紛争は継続し、さらに激化しているため、その影響を受けているコミュニティでは多くの人々が避難を余儀なくされ、地域の社会サービスの崩壊に繋がっている。2023年10月31日現在、200万人近くが国内避難民となっている。2023年5月に発生したサイクロン「モカ」は5つの州で広範囲な被害をもたらし、また複数の季節風がすでに脆弱なコミュニティに更なる打撃を与えた。600万人の子どもを含む1,860万人以上が人道支援を必要としている。

